

1. R7 年度 戦績

-1. 戦績表

各戦(現役より戦評)

リーグ戦

三商大戦

定期戦

-2. 今シーズンを振り返って

-1. 現役主将

-2. GM

-3. 監督

2. 今年度の OB 会活動

-1. OB 会長

-2. OB 会活性化プロジェクト

-3. 芝生管理について

-4. 広報・コミュニケーション委員会

-5. 東京支部会

3. トピックス

-1. テント寄贈

-2. 三商大戦、飲食付きアフターマッチファンクション復活

-3. スコアボードを作成(大学基金利用)

-4. 大学基金で芝生化やラグビー部への寄附が Web で行えるように!

4. 新年度に向かって

-1. R8 年度幹部陣

-2. 新共同主将から

-3. OB 会長から

-4. R8 年度の予定

5. 事務連絡

-1. ホームページ

-2. 訃報通知

-3. OB 会費納入のお願い

-4. 名簿

-5. 事務局



令和8年度 ー関西大学ラグビーリーグ戦戦績ー
 健闘、Bリーグ12チーム中11位
 三商大戦 1勝1敗2位

令和7年度(2025年度)1次リーグ&2次トーナメント試合結果

まず、12チームを6チームずつB1とB2の2グループに分けて1次リーグ戦を行い、次に、1次リーグの各グループでの上中下同士4チームで行う2次トーナメント戦が実施されました。神戸大学は、1次リーグのB2グループでは1勝4敗、勝ち点5の5位となり、2次トーナメント(順位決定戦)では下位グループ(9位~12位)に回り、初戦は関西外国語大学に惜敗、11位・12位決定戦は大阪教育大学に勝利しました。最終的には、Bリーグ12チーム中11位となりました。各試合には多くのOBの皆様の応援をいただきましたが、残念な結果となりました。2次トーナメント2回戦リーグ最終戦では、前半24-17と得点の取り合いながらリード、後半は一進一退でお互いに1トライずつ取っての29-22で凌ぎきって勝利となりました。また、三商大戦は春に大阪公立大に勝利していたので、昨年に続いての連続優勝を期待されておりましたが、こちらであと一步及ばずという結果となりました。

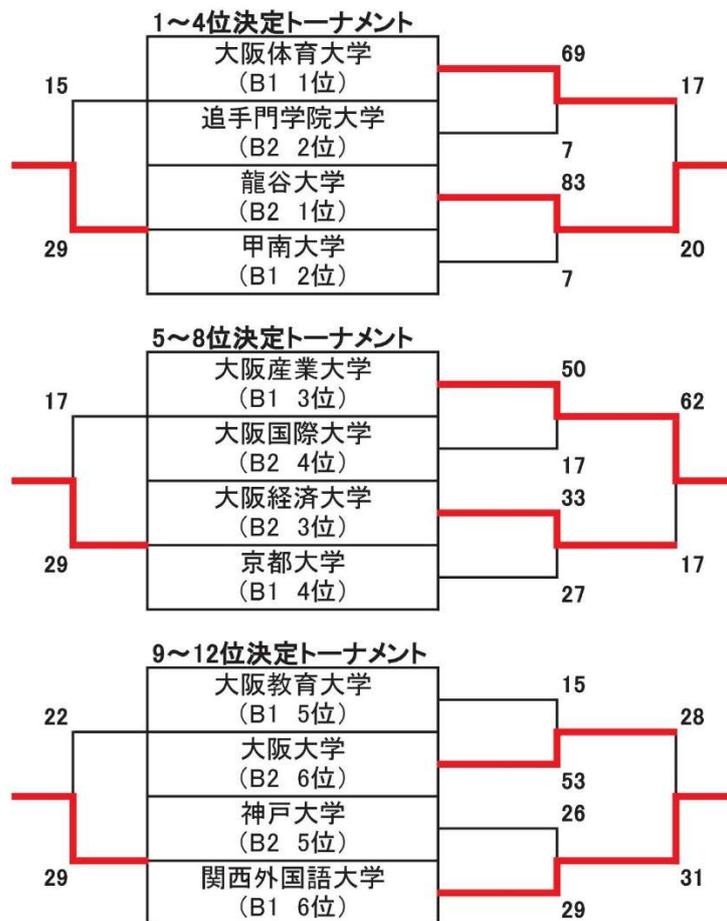
来年はリーグ再編もありC1リーグでのスタートとなりますが、今年のかやしさを糧に1年でのBリーグ復帰を目指してもらいたいものです。OB・OGの皆さんには、グラウンドに足を運び、現役への後押しを宜しくお願いします。

■関西大学Bリーグ最終順位

- 1位:龍谷大学 2位:大阪体育大学 3位:甲南大学 4位:追手門学院大学
 5位:大阪産業大学 6位:大阪経済大学 7位:京都大学 8位:大阪国際大学
 9位:関西外国語大学 10位:大阪大学 11位:神戸大学 12位:大阪教育大学

| B1リーグ | 大 体 大 | 大 産 大 | 京 都 大 | 大 教 大 | 甲 南 大 | 関 西 外 大 | 勝 | 負 | 分 | 得失点 | 勝点 | 順位 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|---|---|---|------|----|----|
| 大 体 大 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 5 | 0 | 0 | 318 | 25 | 1 |
| 大 産 大 | ● | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | 3 | 2 | 0 | 101 | 14 | 3 |
| 京 都 大 | ● | ● | ○ | ○ | ● | ○ | 2 | 3 | 0 | 68 | 12 | 4 |
| 大 教 大 | ● | ● | ● | ○ | ● | ○ | 1 | 4 | 0 | -203 | 4 | 5 |
| 甲 南 大 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 4 | 1 | 0 | 49 | 18 | 2 |
| 関 西 外 大 | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | 0 | 5 | 0 | -333 | 0 | 6 |

| B2リーグ | 龍 谷 大 | 大 阪 大 | 神 戸 大 | 追 手 門 大 | 大 阪 大 | 大 経 大 | 勝 | 負 | 分 | 得失点 | 勝点 | 順位 |
|---------|-------|-------|-------|---------|-------|-------|---|---|---|------|----|----|
| 龍 谷 大 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 5 | 0 | 0 | 457 | 25 | 1 |
| 大 阪 大 | ● | ○ | ○ | ○ | ● | ○ | 2 | 3 | 0 | -58 | 10 | 4 |
| 神 戸 大 | ● | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | 1 | 4 | 0 | -230 | 5 | 5 |
| 追 手 門 大 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 3 | 2 | 0 | -13 | 15 | 2 |
| 大 阪 大 | ● | ○ | ● | ● | ○ | ○ | 1 | 4 | 0 | -196 | 4 | 6 |
| 大 経 大 | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 3 | 2 | 0 | 40 | 15 | 3 |



AB入替戦

| 日程 | K.O. | | | | 会場 |
|-----------|-------|--------------|-----------------|---------------|--------|
| 12月13日(土) | 11:45 | 摂南大学 A8位 | 19-17 (0-5) | 龍谷大学 B1位 | 宝が池球技場 |
| 12月13日(土) | 14:00 | 立命館大学 A7位 | 57-21 (31-7) | 大阪体育大学 B2位 | 宝が池球技場 |

BC入替戦

| 日程 | K.O. | | | | 会場 |
|-----------|-------|---------------|----------------|----------------|-------|
| 12月14日(日) | 11:00 | 大阪国際大学 B8位 | 44-7 (27-7) | 花園大学 C11位 | 京都大宇治 |
| 12月14日(日) | 13:00 | 京都大学 B7位 | 67-0 (22-0) | 大阪公立大学 C12位 | 京都大宇治 |

C1C2入替戦

| 日程 | K.O. | | | | 会場 |
|-----------|-------|----------------|------------------|------------------|-------|
| | | 大阪学院大学 C13位 | ○-× | 佛教大学 C22位 | |
| 12月14日(日) | 15:00 | 大阪工業大学 C14位 | 67-24 (38-12) | 大阪経済法科大学 C21位 | 京都大宇治 |

(各戦評は現役チームより)

【1次リーグ戦】

9月21日(日) 大阪経済大学戦 13:00 K.O. @甲南大学六甲アイランドG

前半 5 - 33

後半 12 - 33

合計 17 - 66 (●)

リーグ戦初戦のこの試合は神戸大学の強みを活かすことができずに敗戦した。相手チームのFWの圧力に圧倒され、DFで受け続ける試合展開となり、力で押し込まれる形になった。夏からこの初戦にフォーカスを当てて完璧な準備ができなかったことも大きな敗戦の要因である。



9月28日(日) 大阪大学戦 11:00 K.O. @大阪大学吹田キャンパスG

前半 14 - 0

後半 26 - 21

合計 40 - 21 (○)

この試合は前半からしっかりとエリアをとって戦うことができ、幸先よく先制トライをあ



げることができた。またゴール前のDFもFWが体を張り、前半を無失点に抑えることができたことが大きな勝因の一つと考える。試合を通してATもDFも粘り強く戦うことができ、神戸大学らしいラグビーを体現することができた。

10月12日(日) 大阪国際大学戦 13:00 K.O. @大阪大学吹田キャンパス G

前半 5 - 26

後半 5 - 21

合計 10 - 47 (●)

この試合はBKのダイレクトタッチやFWのセットプレーのミスなど自分たちのミスで相手の流れを渡し失点する形がとて多かつた。ひとつひとつのプレーの精度を上げ、粘り強くDFをすることに課題が残る。

10月19日(日) 龍谷大学戦 13:00 K.O. @甲南大学六甲アイランド G

前半 0 - 50

後半 0 - 64

合計 0 - 114 (●)

この試合はFWのセットプレー、BKはパス、ラン、キックで圧倒され、大差をつけられての敗北となった。厳しい試合の中でも自分たちにできることを見つけ、1つでも学びを得るようにしたい。

11月2日(日) 追手門学院大学戦 13:00 K.O. @甲南大学六甲アイランド G

前半 7 - 26

後半 20 - 50

合計 27 - 76 (●)

この試合は3トライ差以上つけて勝てばBリーグ残留となる試合で、前半の最後に立て続けにトライを取られ19点差を追う展開になった。点差をつけられたことへの焦りからDFの集中力が落ち、トライをとっても取り返され、最終的に大きく点差が開いた結果になった。



【2次トーナメント戦】

11月23日(日) 関西外国語大学戦 13:00 K.O. @大阪大学吹田キャンパス G

前半 7 - 15

後半 19 - 14

合計 26 - 29 (●)

前半はなかなかATの時間を確保することができず、DFでは相手のキーマンを止めることができずに折り返しを迎えた。後半の残り20分頃からは自陣からもボールを展開しトライをとることができ、自分たちの流れを呼び込むことができた。しかし最後敵陣深くまで攻めることができたが、トライを取り切ることができず、悔しい敗戦となった。



11月30日(日) 大阪教育大学戦 15:00 K.O. @関西外国語大学 G

前半 24 - 17

後半 5 - 5

合計 31 - 22 (○)

前半は点の取り合いの展開が続き、敵陣で攻撃した時はしっかりとトライを取り切ることができ、リードした状態で前半を終えることができた。後半は打って変わってロースコアの展開となり、両チーム体力的にきつい時間が続きながらも、最後の最後までDFで諦めることなく相手にくらいつき、リーグ最終戦で勝利を掴むことができた。



三商大戦

6月22日(日) 大阪公立大学戦 14:00 K.O. @神戸大学深江キャンパスG

前半 21 - 7

後半 17 - 5

合計 38 - 12 (○)

終始FWのセットプレーで相手を上回ることができ、特にスクラムでは相手を圧倒することができた。その中でBKがランとパスで着実にスコアを取り、勝利をおさめることができた。

12月20日(土) 一橋大学戦 11:00 K.O. @神戸大学深江キャンパスG

前半 12 - 7

後半 14 - 24

合計 26 - 31 (●)

前半先に2トライをあげ、流れを掴んだがその後うまくエリアマネジメントすることができずに自陣から脱出できず、前半終了間際にトライを許してしまった。後半も中盤のペナルティからの相手のモールを止めることができずに逆転を許した。その後も果敢に攻めたものの、スコアまで行くことができず、敗戦となった。





8月16日(土) 大阪公立大学 12-24 一橋大学 @菅平

■順位：1位：一橋大学 2位：神戸大学 3位：大阪公立大学

神戸大は残念ながら2年連続の優勝ならず、一橋大は昨年3位からの優勝となりました。

定期戦

5月4日(日) 東京海洋大学戦 14:00 K.O. @東京海洋大学中越島キャンパス第2G

前半 64 - 5

後半 54 - 0

合計 118 - 5 (○)

東京での開催となったこの試合は前半からBK,FW共にセットプレー、ラン、パス、キックで相手を圧倒し、大きく点差の開く展開になった。後半はメンバー変更もあったが変わらず圧倒することができた。

5月18(日) 甲南大学戦

甲南大学の都合により今年度は中止となりました。

今シーズンを振り返って

主将：陶山 翔翼

1. 御礼

まずは、今シーズンを通して多大なるご支援・ご声援を賜りました、OB・OGの皆様、保護者の皆様、ならびにすべての関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。創部100年以上の長い歴史を持つ部活動として、これほど多くの方々に支えられながら日々活動できていることを、強く実感した1年でした。

皆様のご支援に、心より感謝申し上げます。

2. 今シーズンの総括

今年のリーグ戦の成績は、2勝5敗で11位、(一次リーグ5位)という結果でした。昨年は、Bリーグ6位という成績を残すことができましたが、今シーズンはそこから大きく後退する形となり、この結果を主将として非常に重く受け止めています。また、来シーズンからのリーグ編成変更により、Bリーグが8チーム制となることに伴い、来年はCリーグで戦うこととなりました。日頃より応援してくださっているOB・OGの皆様、保護者の皆様、そして関係者の皆様のご期待に応えられなかったことについて、申し訳ない気持ちでいっぱいです。

主将として今シーズンを振り返ったとき、最も足りなかったと感じているのは、チームをまとめ上げる力だったと思っています。同じ方向を向かせること、迷いが生じたときに判断を示すこと、そしてチームのために厳しく、強く在ることが、リーダーとして求められていましたが、その点において自分はまだもっと踏み込むべきだったと強く感じています。もし主将としてより強い姿勢でチームに向き合えていれば、チームはもう一段階成長できていたはずであり、拮抗した試合の中でも勝ち切る力を身につけることができていたのではないかと思います。

この一年は、結果だけを見れば厳しいシーズンだったかもしれません。しかし、チームとして多くの課題と正面から向き合い、悩み、考え続けた経験は、決して無駄にはならないと感じています。この経験が、必ず次の世代の糧となり、より強いチーム作りにつながっていくことを願っています。そして来シーズンは、後輩たちが1年でのBリーグ復帰という目標を必ず成し遂げてくれると信じています。

応援してくださっているOB・OGの皆様、保護者の皆様、関係者の皆様には、今後とも変わらぬご支援・ご声援を賜るとともに、温かくチームの歩みを見守っていただけましたら幸いです。

3. 後輩へ

まず初めに、主将として、Cリーグ降格という結果を残してしまったことについて、本当に申し訳なく思っています。そして、この結果を招いた最大の要因は、自分自身の主将とし

での力不足、特にチームをまとめ上げる力が足りなかったことにあります。

その上で、今年の反省を踏まえて一つ伝えたいのは、「厳しさ」と「頼ること」の重要性です。

今シーズンを振り返る中で、自分自身、チームに対する厳しさが足りなかったと感じています。また、主将として「自分一人で何とかしよう」としてしまいう場面が多かったことも、大きな反省点です。チームは一人では変えられませんし、一人で強くすることも、厳しくすることもできません。だからこそ、周囲の仲間、同級生、後輩といった多くの人の力を借りながら、チーム作りを進めていってほしいと思います。一人で決断し、一人で動くよりも、周りを巻き込みながら進めていくことの方が、間違いなく難しいことです。ですが、それができたとき、チームは表面的ではなく、根っから本当に強くなると信じています。

そして、そうしたチームで取り組むラグビーは、必ず楽しく、やりがいのあるものになるはず。これまで共に活動してきた経験、そして今の後輩たちの姿を見ていて、来シーズン、1年でのBリーグ復帰は十分に達成できます。大変なシーズンになると思いますが、自分は今後も皆の挑戦を応援しています。頑張ってください。



今シーズンを振り返って

ゼネラルマネージャー：磯江 憲夫

2025年度年間全試合勝率は60.0%と、2024年度勝率の57.1%を上回り、現役達は大層頑張ったものの、GMの指導力不足で、リーグ戦では2024年度3勝4敗、勝率42.9%から2025年度2勝5敗、勝率28.6%へと下回り、2025年度関西大学Bリーグリーグ戦は11位(12校中)の結果となった。就いては、来期Bリーグ8チーム化への規定変更でBリーグに残れぬ事となり、誠に残念ながら、2026年度はCリーグから出発する事になってしまった。

期が改まり、陶山主将率いる全部員は、神戸大学ラグビー部ブランド価値最大化を図る基本概念の元、先期の強化方向性に基づき(以下参照)強化に努め、春先は強化策が徐々に現実化して行き、FW/BK一体になったアタックとディフェンスで、東京海洋大戦では定期戦史上初となる118-5の勝利を収める事も出来た。

[今季方向性]

スローガン OVERCOME、目標リーグ戦5勝以上(→2勝5敗)、獲得部員20+5名(→9+5名)

1. 部員数増数
2. FWの体重増強とスクラム強化
3. フィットネス(パワーと持久力)向上と怪我・故障の最小化
4. 全部員ラグビー知の底上げ
5. 良質な練習環境の提供
6. 現役/OBの緊密なコミュニケーション
7. 地域貢献
8. 国際化へ始動

[中長期]

- ・ 継続的新入部員確保体制の確立
- ・ 定期戦の充実
- ・ 現役指導体制の充実と継続
- ・ 4回生就職支援
- ・ 国際化推進
- ・ OB会費支払い率の更なる向上
- ・ 環境整備
- ・ Aリーグ復帰、大学選手権出場、花園 or 秩父宮 or 国立で商神斉唱

しかし、夏、初秋へと季節が進むと、先季のFWから100kg台プロップ2名、熟練プロップ1名、188cm身長ロック1名が同時に抜けて一挙に層が薄くなった影響が表れ、フロントローレギュラー陣が負傷退場すると控え組との力量差は歴然、Bリーグ相手ではまともなスクラムが組めなくなり、ラインアウトも競り負け、リーグ戦開幕1勝1敗の後、立て続けに3連敗を喫し、B2リーグ6校中5位に転落、順位決定戦も1勝1敗、Bリーグ11位の悔しい結果となった。

入部してから筋力・体力・ラグビー知を身につけねばならぬ部員が多い神戸大学ラグビー部とは異なり、私大ラグビー部は、控え組でも十分なフィットネスを備えており、弊部は、今までの様に部員の確保だけではなく、新入部員の早急な戦力化(ラグビー知、体力、技術を備える)が出来なければ、Bリーグ私大には勝てない事を思い知らされた一年となった。加えて、私大に比べて部員数の少ない神戸大ラグビー部は、怪我人を出さず、怪我をしても早急なカムバックが出来る体力作りとシステム作りが求められる厳しい現実も突き付けられた。が、人間万事塞翁が馬、2025のチームは残念ながら結果は伴わなかったものの陶山主将のリーダーシップの元ベストを尽くし、今後の課題をあぶり出してくれた事に感謝する。2026年度Bリーグ復帰へ向けて新チームはそれら課題を克服すべく新提案を既にどんどん考案してくれている。

一方、2025年度に、坂下新会長体制下、OB会組織も刷新されたが、2026の朗報は、新体制とシンクロする来期現役バックス陣がBリーグ私大チームを凌駕するキック力、展開力、突破力、ディフェンス力を備えており、FWのセットプレーを安定させる事さえ出来れば十分勝機を得る実力を備えている事である。2026年度は、新OB会体制の船出が成功し、神戸大学ラグビー部がBリーグ復帰する事を強く祈念する。

ここで本紙面をお借りし、応援頂いた現役親御さん、OBの方々のご支援への感謝の意をお伝えさせて頂き度い。来期も変わらぬご支援の程、何卒宜しくお願い致します。

今シーズンを振り返って

監督：桑田 雅也

本年度から監督に就任しました、桑田雅也(R4卒)です。

皆様もご存じの通り、本年度はリーグ再編成に伴うBリーグ縮小(12チーム→8チーム)という過酷な状況の中でのシーズンとなりました。結果としましては、一次リーグ6チーム中5位となり、二次トーナメントの末11位と、Cリーグ降格となってしまいました。

陶山主将の下、「リーグ戦5勝」という目標を掲げ、それに向けた強化を春シーズンから進めておりました。同じBリーグのチームとの練習試合、東京海洋大学・大阪公立大学の定期戦、および夏合宿でも勝ちを重ねることができました。しかし、リーグ戦が始まると、主に相手チームの個人技に対応できずDFで後手となる場面が多かったことが結果の要因だと考えております。現役選手たちは勝利するために全力を尽くしてくれていましたが、課題解決に向けた的確なアドバイスができなかったのは自身の力不足だと痛感しました。

OBの皆様におかれましては、日々のご支援誠にありがとうございます。皆様が「応援に来て楽しい」「応援に行きたい」と思っただけのようなチーム作りをしていきたいと思っております。来年度はCリーグでの戦いとなりますが、「1年でBリーグに返り咲く」を必達目標として、新主将の下、結果にこだわっていきたくと考えております。

2. 今年度のOB会の活動

今年度のOB会の活動を振り返って

会長：坂下 清信

今年度よりOB会長職を務めることとなり、田中前会長が取り組んでこられた「組織による運営」と「現役との距離を縮め寄り添う」という基本方針を継承し、新たな活動をスタートしました。

- ・OB会活性化プロジェクトの創設 ⇒ OB同士の世代間交流、現役との交流
- ・組織による芝生管理体制の構築 ⇒ 属人的にならない組織としての管理
- ・広報・コミュニケーション活動 ⇒ OB同士の世代間交流

これらは基本方針に沿った活動ですが、究極の目的は「OB会が現役を物心両面で支援し、チーム強化につなげること」にあります。文字通り「物心両面で」であります。

まず「物=資金」ですが、今年度のOB会の収入は皆様のご協力を頂き、昨年並みを維持できそうです。しかしながら、現役を強化するためには、まだまだ不足しているのが課題です。

また芝生の維持管理は、昨年度に続き今年度も傷みの激しい箇所の張替えを実施しましたので、100周年記念事業で頂戴しました寄附金の余力が乏しくなっています。

次に「心=寄り添う」ですが、これは会長としては満足に活動できておらず、磯江GMに頼りっぱなしの1年でした。磯江GMには大変なご苦勞を頂戴しています。

以上、今年度の振り返りですが、十分にできなかった課題については、理事の皆さまと良く協議し、次年度の活動方針に掲げることとします。

OB会活性化プロジェクト

副会長：大野 慎治

今年度のOB会活性化プロジェクトの活動状況について報告します。本プロジェクトの目的は、OBがOB会を通じて神戸大学ラグビー部の活動に積極的にに関わり、物心両面から現役を支援することで、神戸大学ラグビー部の強化につなげることにあります。

その観点から、今年度は以下の2点に注力してきました。

1. ラグビーフェスティバルの開催
2. 現役支援活動資金の強化策の立案

1. ラグビーフェスティバルの開催について

若手OB(卒業後10年前後)が忙しい中でもグラウンドに足を運び、現役や他のOBと交流できる機会をつくることを目的に、神戸大ラグビーフェスティバルを開催しました。開催日は2025年6月8日(日)、場所は神戸大学深江グラウンドです。内容としては、OBと現役が混ざって行うタッチフットと、新入生中心の現役チームと若手OBが対戦する新入生歓

迎試合の二つを実施しました。

当日は好天に恵まれ、早朝から多くのOBとご家族が参加しました。タッチフットではOBも予想以上に動いていたようで、大きな怪我もなく無事に終了しました。新入生歓迎試合はスクラムをノーコンテストとした以外はフルコンタクトで実施し、白熱した攻防の末、現役チームが35-7で勝利しました(OBも1トライを挙げました)。

試合後は交流棟エントランスホールに場所を移して懇親会を開催しました。コロナ禍で疎遠になっていたOB同士が旧交を温めるとともに、会の後半ではポジションごとにOB・現役混ざってのテーブルにと席替えも行い、現役とも積極的に交流できたことで、OBと現役の距離が大きく縮まりました。最後の商神斉唱ではOBと現役が肩を組んで歌い、一体感の醸成に大きく寄与したと感じています(詳しくはホームページや前号の会報で報告しております)。

2. 現役支援活動資金の強化策について

神戸大ラグビー部100周年行事を契機に、OB会活動への関心が高まりつつあります。この機運をさらに大きな流れにするため、以下の取り組みを進めました。

- ・OB会費の確実な徴収体制の強化

卒業する4回生全員に対し、OB会費支払いの依頼を漏れなく行うことで、継続的に会費を支払うOBを確保する体制を強化します。

- ・税額控除を活用した寄付制度の整備

個人の所得から税額控除を受けられる形で、神戸大学基金への寄付制度を活用する仕組みを策定しました。寄付時に「ラグビー部支援活動資金」として指定すれば、大学側の一定の手続きを経て、ラグビー部強化のための資金として活用してもらえます。経済的に余裕が生まれつつあるOBも増えていると考えられますので、可能な方にはぜひご協力をお願いしたいと思います。(編集部注：今号20Pに概略を記載しておりますが、詳しくは後日事務局よりお知らせします)

今後に向けて

昨シーズンは不本意な戦績によりCリーグへ降格する結果となりました。特に今春卒業した4回生の悔しさは大きいと思われませんが、OBも同様に強い無念を感じています。新4回生には「来季Bリーグに昇格できなければ当面の浮上は難しい」という覚悟で臨んでもらいたいと考えています。OB側も「今サポートしないでいつやるのか」という危機感を共有し、物心両面から現役を支えてまいります。

また、今シーズンもラグビーフェスティバルを開催し、OBと現役のさらなる一体感を醸成するとともに、双方の覚悟を共有する場を設けたいと考えています(現在6月7日(日)開催を予定しております)。多くの皆さんの参加をお待ちいたします。

芝生管理について

芝生化推進委員会：福本 裕郁

深江グラウンドの維持管理等について8月2日に神戸大学大阪クラブにて関係者で会合をもち、効率的、効果的に行うため、OB 会内で、芝生化推進委員会を以下の体制で組織化する。こととなりました。

委員長：田中顧問、(副)坂下会長

- ├ 大学窓口・予算管理 長：板垣、(副)遠藤
- ├ 阪神園芸窓口 長：田中、(副)中本
- ├ 芝刈り作業実施部隊 隊長：有明、(副)福本

隊員：本日の出席者、凌霜ラガー通信等で募集する。

主な業務

- ・委員長：年間計画策定(予算と作業の両面)
- ・大学窓口・予算管理：学組織内「芝生化推進委員会」解散手続き、深江グラウンド芝生化口座の管理(大学関係部署との連携)
- ・阪神園芸窓口：芝生維持管理全般のアドバイス受け、個別工事の発注
- ・芝刈り作業実施部隊：作業スケジュール作成と人員調整(6~9月は毎週、2~3人/回)、芝刈り作業の実施、水撒き調整(現役との連絡)、排水溝、土手などの周辺環境整備、学生支援課・高岡氏との鍵連絡、黒田氏作成の芝刈り機メンテナンスマニュアルの入手とメンテナンスの実施

上記から「芝刈り作業実施部隊」について前95号の末尾で緊急告知としてお知らせいたしました。今年度は8月~10月まで、ほぼ毎週の作業予定を組み、天候やメンバーのスケジュール不調で作業ができない週もありましたが、少なくとも隔週では作業を実施しました。

メンバーは田中顧問(S53)筆頭に、板垣さん(S54)、坂下会長・安積さん・中本さん、有明さん(S57)、向井さん・村上さん(S58)、遠藤事務局長(S60)、大野副会長・福本(S63)の11名に加え、昨年までの主力明慶さん(S53)にも作業や指導に来ていただいております。メンバー構成をご覧いただければわかるように他の職務も兼任でのメンバーが多くなっております。来期はぜひ、多くの方に作業に関わっていただければと願うところです。

また、維持費の確保という課題もございます

これまで通りでも年々目減りしていきませんが、芝生が大きく傷み2024年・2025年で大規模な補修作業も行ったところ、さらにひっ迫の度合いが増しております。

この件に関しましては、機会を改めて詳しくお伝えしお願いをすることとなるかと思っております。ご理解のほどよろしくお願いたします。

広報・コミュニケーション委員会

委員長：川北登志雄

2025年の活動方針「栄光の時代を復活させよう」というミッションのもと、理事会および総会で承認された取組項目は6項目ありました。その中で、広報・コミュニケーション委員会は「名簿の拡充とSNSを活用した連絡・情報伝達手段の確立」に取り組んでまいりましたが、残念ながら大きな成果を上げるには至らず、深く反省しています。

ホームページについては、担当者の交代に伴い研修を実施したものの、慣れない作業に苦勞しながらのスタートとなりました。ホームページに13回の投稿を行いました。情報を十分に伝えることができたとは言えず、既存のOB・OG LINE グループにも何度か情報を発信しましたが、こちらも十分とは言えない状況でした。会報の発行については一定の評価をいただけるかもしれませんが、しかしながら、「OB間の交流の活性化や世代を超えたつながりの強化」にどれほど貢献できたかについては、なお課題が残ると感じています。こうした反省を踏まえ、来年度は具体的な取組項目を明確にし、実現に向けてしっかりと計画を立てて臨む所存です。

ホームページにおいては既に2月からコンテンツの充実を図っており、「会員の活躍紹介コーナー」を新設しました。OB会の仲間の興味深い話が掲載されていますので是非ご覧ください。新聞に取り上げられるような大きな活躍に限らず、世間的には小さくとも、業界や専門分野において大きな意義を持つ活躍をされているOB・OGの皆さまが多くいらっしゃるはずです。そうした方々のご活躍を紹介することで、OB・OG間の交流を活性化し、現役生の励みにもなればと考えております。ぜひ皆さまからの自薦・他薦による情報提供をお願い申し上げます。

来季、現役の皆さんはBリーグ昇格に向けて、これまで以上にハードなトレーニングに励むことでしょう。私たちOB・OGも、これまで以上に結束を強め、その絆の中から多様な形で現役を支援していきたいと考えています。100周年の時に結束の種が蒔かれました。そこから芽吹かせて、枝葉を広げるまでが、広報・コミュニケーション委員会のミッションです。すでにその第一歩は踏み出しましたが、来年度はOB・OG間だけでなく、現役とOB・OG間のコミュニケーション強化にもつながる施策を次々に展開してまいります。これらの施策を、皆さまとともに、楽しみながら実現・達成していきたいと考えております。様々な話題の提供をお願いするとともに、施策へのご意見、アドバイス等をいただけたら有難く存じます。

話題の提供等は広報・コミュニケーション委員会までお願いいたします。

(E-mail : ku-rfc-ob-prcomms@googlegroups.com)

東京支部

東京支部事務局：鬼丸 省一

東京支部では秋季集会を 2025/11/17 に開催しました。

当日は、坂下会長、磯江 GM も大阪から参加して計 25 名が集まりました。

前半の集会では、坂下会長から OB 会活動状況、磯江 GM からは現役の奮闘状況について説明があり、後半の懇親会では昔話やお互いの近況報告、さらにラグビー部全体の将来などを語りあって、楽しいひとときを過ごしました。

「現役は来期 C リーグでの戦いとなるが、すぐに B リーグに復帰できるよう、我々 OB もさらに結束して彼らをサポートしていくこと」の確認と、「今期の残り試合については、全てが来期に繋がる試合となること」を祈願して、笑顔のうちに散会しました。

参加者は以下の方々です。

堤 (S38)、小川 (S46)、尾上・並河 (S47)、磯江 (S53)、杉本 (S55)、
辻野・濱名・本城 (S56)、坂下 (S57)、新川・安井 (S61)、
鬼丸・児玉・田村・中村 (S62)、北濱 (S63)、氷見 (H1)、石脇・三木 (H2)、
北本 (H3)、赤澤 (H11)、松浦 (H17)、山崎 (H18)、河合 (H21)



東京支部では、年 2 回の会合及び懇親会を開催しております (5 月頃に支部総会、11 月頃に秋季集会)。関東地区在住の OB の皆様にはできるだけ案内が行き渡るよう努めておりますが、本会参加にご興味がある方は、ぜひ、東京支部事務局 鬼丸までご連絡いただけますと、幸いです。

(E-mail : gshoichi52@gmail.com)

3. トピックス

テント寄贈

9月に、2025年卒のOB・OGの皆様より大型のテントをご寄贈いただきました。

温かいお心遣いに心より感謝申し上げます。

テントは、日差しが強い練習の日よけとして、また試合におけるチームベンチの日よけとして利用させていただきます。

以前より、テントが小さく風雨で破損しやすいことが備品管理の課題でしたが、今回頂いた骨組みが強い大型テントでその問題が解決されました。

(ホームページ/お知らせ 2025年9月12日より)



三商大戦、飲食付きアフターマッチファンクション復活

2025年12月20日(土)、三商大戦として一橋大学戦が深江キャンパスGにて開催されました。試合内容および結果につきましては、戦績ページをご覧ください。

当日は晴天に恵まれ、12月としては穏やかな気候の中でのキックオフとなりました。一橋大学チームは前日より神戸入りし、万全の準備で試合に臨みました。

神戸大学・一橋大学双方の保護者の皆さまが多数来場され、温かい声援がグラウンドを包みました。

試合後には両校選手が入り混じって集合写真を撮影し、健闘を称え合いました。



多くの保護者の方々



OB等はこちらサイドに



両校集合写真

試合後、交流棟エントランスにて、数年ぶりとなるアルコール含む飲食ありフル規格のアフターマッチファンクションを開催しました。

大阪公立大学は試合こそありませんでしたが、幹部陣・指導陣OBが参加し、三校が揃っての貴重な交流の場となりました。

会では、各校の指導者・主将・OB会代表より挨拶が行われ、選手たちは学年ごとのテーブルで交流を深めました。和やかな雰囲気の中、互いの健闘を称え合い、親睦を深める時間となりました。(OBはOBテーブルにて旧交を温めました。)



神戸大陶山主将

優勝トロフィー贈呈

懇親の様子

締めくくりには、各校の部歌を斉唱し、エール交換を実施。最後に全体で集合写真を撮影し、盛会のうちに終了しました。



一橋大学

大阪公立大学

神戸大学



本試合をもって、2025年度チームの最終戦となりました。

スコアボードを作成(大学基金利用)

これまで使用していたスコアボードは、小さめのホワイトボードにマーカーで手書きする簡易的なものでした。見た目も機能も十分とは言えず、買い替えを検討したところ、市販品は43万円や85万円と非常に高額で、しかも税別でした。

そこで「ホワイトボードを使って自作すれば安くできるのでは」と提案したところ、私(福本)が制作を依頼されました。ネットで調べたところ、土台となるホワイトボードは約3万円、数字のマグネットパーツは1文字あたり約2千円と見込み準備を進めました。

ホワイトボード本体は活動基金から購入し、OB会計の負担を軽減する形にしました。基金を利用するには学生側からの要望が必要とのことで、現役チームに担当者(2回生の大山君)を選んでもらい、大学の学生支援課とのやり取りをお願いしました。

試作を進める中で、市販の数字マグネットはサイズが合わないことが判明しました。そのため、100円ショップのプラスチックボードを切り、裏にシールマグネットを貼る方法に切り替えました。

ホワイトボードの組み立てや罫線テープの貼り付けは、大山君と一緒に作業し、12月の三商大戦(対一橋大)で初めて使用しました。両面使用できるホワイトボードを選んだため、裏面はそのまま残しておき、スコアボードとして使わないときはミーティングルームの通常のホワイトボードとして活用しています。

最終的に、基金で購入したホワイトボードは56,500円とやや高めになりましたが、OB会計が負担したパーツ代は1,870円に収まりました。



作成前のスコアボード



新調したスコアボード



平常時はホワイトボードとして

大学基金で芝生化やラグビー部への寄附がWebで行えるように！

神戸大学基金「深江グラウンド芝生化口座」または「課外活動支援募金・ラグビー部」への寄附の申し込みは、従来神戸大学指定の払込取扱票(振込用紙)を取り寄せる形のみでしたが、今般、神戸大学のご協力により、WEB(インターネット)からも行えるようになりました。神戸大学基金のホームページ(<https://www.office.kobe-u.ac.jp/kikin/>)に入り、申し込み画面で【希望される寄附金の使途】欄に「深江グラウンド芝生化口座」または「課外活動支援募金・ラグビー部への寄附」と入力するという方法です。詳しくは改めて事務局よりお知らせいたします。

4. 新年度に向かって

令和8年度(2026年度)首脳陣

| | | | |
|---------------|--------|--------|------|
| 共同主将(FW リーダー) | 畑中 愛正 | 海洋政策学部 | 新4回生 |
| 共同主将(BK リーダー) | 左村 碧月 | 国際人間学部 | 新4回生 |
| 副将 | 土生 祐輔 | 農学部 | 新4回生 |
| 副将 | 甲田 結平 | 海洋政策学部 | 新4回生 |
| 主務 | 大山 向星 | 工学部 | 新3回生 |
| 副務 | 梁井 鴻志郎 | 海洋政策学部 | 新3回生 |
| 特別サポート | 宮川 広樹 | 経営学部 | 新4回生 |
| チーフマネージャー | 田谷 結衣 | 農学部 | 新4回生 |

来シーズンを向かって

共同主将：畑中 愛正



今シーズンのスローガンとして「覚悟」、目標として「Cリーグ優勝、Bリーグ昇格」を選びました。

部員皆が伝統ある神戸大学ラグビー部の一員としての自覚と誇りをもち、闘争心を燃やし続けられるチームとなる。そして最終的に「Cリーグ優勝・Bリーグ昇格」を達成するための合言葉が「覚悟」です。

目標達成のためには、より一層ボールへの執着、コンタクトの激しさ、ゴール前での粘り強さ、そして何より勝利への執念が求められます。これらを体現するためには今まで以上にラグビーに費やす時間が必要となります。それでもなお、シーズンをBリーグ復帰のために努力を惜しまない。この強い意志を「覚悟」という言葉に込めました。

私自身、昨年度は怪我で思うように練習ができず、また、結果も出せず悔しさを味わいました。このラグビー部で闘えるのもラストシーズンとなります。個人としても、チームとしても悔いの残らない結果を残せるよう一日一日を全力で積み重ねてまいります。

普段から手厚いご支援と温かいご声援をいただいておりますOBの皆様を始め、関係者の皆様のご期待に勝利という形でお応えできるよう、「覚悟」を持って練習に励みます。今シーズンも変わらぬご支援・ご声援を賜りますよう、何卒よろしく願いいたします。

共同主将：左村 碧月

昨シーズンは、12チーム中11位という結果となりCリーグに降格しました。リーグ編成が変わり、Bリーグに所属する大学数が8チームに減少しました。この煽りを受け、入れ替え戦も無くCリーグに降格したことは事実ですが、11位という不甲斐ない結果を残したことも紛れもない事実です。



昨シーズンの陶山主将は、「チームをまとめ上げられなかった」と評していますが、それは下級生からすると、「主将についていくことができなかった」という反省が残ります。

この反省を活かし、私と畑中の二人でチームを作ろうとするのではなく、ほか幹部をはじめ、選手もマネージャーも、全部員の力を総動員できる環境づくりを目指します。今年の試みとして、共同主将を導入しました。チームのトップを2人にしたのも、FWとBKを両輪としてしっかりと機能させることでチームの結束を高め、本気でチームを変えたいと考えているからです。

その思いの表れとして、今シーズンのスローガンを「覚悟」に決めました。

周囲の環境が変化する中で、いち早くBリーグに復帰するためには、私たちラグビー部にも変化が必要だと考えています。その変化は決して楽な道程ではなく、痛み苦しみの伴うものであると捉えています。しかし、今シーズンの目標を達成し、さらには今後の神戸大学ラグビー部が関西大学リーグのなかで、自分たちの価値を証明し続けるために、その変化を恐れず、戦い抜くための決意として「覚悟」という言葉を掲げました。

今シーズンの目標は、当然「Bリーグ昇格」を果たすことですが、それが果たせたとて、すぐにCリーグに降格するようであれば意味がありません。Bリーグで戦い続けられる環境を整えることも今の我々には必要だと考えています。

言うは易し、行うは難し。皆さまにはぜひともグラウンドに足を運んでいただき、「覚悟」をもって励む部員の姿を見ていただければと思います。

来シーズンを向かって

OB会会長：坂下 清信

来年度は現役がCリーグスタートであり、OB会としてはBリーグ復帰を目指し『本気』で現役支援を行わなければなりません。よく言われる通り、Cリーグに転落したすぐ翌年が勝負です。

その前提として当然ながら現役諸君の『本気度』が重要となります。これについては新4年生の首脳陣から来シーズンのスローガンとして『覚悟』という言葉が出てきました。そして『Cリーグ優勝とBリーグ復帰』という目標を掲げ『目標達成のためにはチームも個人も

痛みの伴う変化が必要で、しんどいけどやり切る覚悟が重要』と、熱のこもった宣言をしてくれています。

OB 会ができることは何でしょうか。技術的なサポートはラグビーそのものがルールを含め毎年変化していますので、我々にはできません。そこは大石・山内両コーチと桑田監督にお願いしましょう。そして、我々ができることは、良質な練習環境の整備と試合等の分析結果のサポートと考えています。

練習環境と言っても幅広くあります。もちろん芝生維持はその最たるものですが、フィットネス向上のための機器整備や専門家に要る指導、怪我・故障の最小化に資するトレーナーとの契約、練習精度向上のための分析システムの導入などです。

これらには多額の資金が必要となり、現行の定例の年会費のみに頼っている資金規模では到底、間に合いません。

この資金獲得のためには、OB 会の活性化を図り年会費の増収に努めることは勿論のことですが、

- ①税制優遇が得られる恒久の寄付制度
- ②会報やHPでの広告収入
- ③スポンサー企業(OBのメンバーを基本とする)探し
- ④年会費の値上げ

など、早急に検討し、結論を得て実行しなければなりません。

また、前会長が取り組まれた「組織による運営」を更に進化させることを目的として、OB会の組織変更に取り組み、役割分担と責任の明確化を図りたいと考えています。

現役の『本気度』を受け、OB会の皆さまにも『本気』のご協力をお願い申し上げます。

春季試合予定

2月28日時点での情報です。最新情報はホームページでご確認ください。

- ・三商大戦
 - 大阪公立大学 : 6月21日(日)K.O.時刻未定 @杉本町CG(リーグ戦で兼ねることなく)
 - 一橋大学 : 未定(慣例通りだと12月 @一橋大G、2026年ホスト校)
- ・定期戦
 - 東京海洋大学 : 3月29日(日)14:00K.O. @深江G
 - 甲南大学 : 5月17日(日)11:00K.O. @甲南大六甲 Is. G
 - 関西学院大学 : 未定
- ・近国体 未定(2020年度から休止中、おそらく2026年度も休止と思われます)
- ・練習試合
 - 大阪大学 : 4月11日(土)14:00K.O. @深江G(新入生歓迎試合を兼ねる)
 - 大阪学院大学 : 5月6日(水休)K.O.時刻未定 @深江G
 - 関西外国語大学 : 7月5日(日)K.O.時刻未定 @関西外大枚方CG

5. 事務連絡等

訃報ご通知

謹んでご通知申し上げますと共に心からご冥福をお祈り申し上げます。合掌

東川 浩三様 (S62 卒) 令和7年9月11日ご逝去

阪下 喜治様 (S48 卒) 令和7年12月1日ご逝去

坂本 信一様 (S30 卒) 令和8年1月3日ご逝去

OB 会費納入のお願い

OB 会費については皆様のご理解を頂き、年々納入額が増えております。2025 年度の振込がまだの方は下記振り込み先にて手続きをお願い致します。なお、口座振替の方はすでに昨年 6 月 28 日に自動引落しされています(そこで振替できなかった方は 3 月 30 日引き落とし予定)。

振込で年会費を払っておられる OB・OG の方々には、できるだけ口座振替にして頂けることをお願いします。口座振替での納入方法を用意していますので、ご希望の方は事務局までご連絡をお願い致します。口座振替用紙を送付させていただきます。今後とも OB 会の財務基盤強化に向けて何卒ご協力、ご支援をどうぞよろしくお願い致します。

【年会費】

卒業後 10 年未満 (H26 卒～R5 卒) 6,000 円 (マネージャーは 3,000 円)、卒業後 10 年以上 (~H25 卒) 12,000 円 (マネージャーは 6,000 円)、賛助会員 5,000 円。70 才以上の卒業年度の方で特段の申し出のなかった皆様からは、ご寄付いただいたものとして引落しさせていただいておりますのでご了承ください。

【振込先：凌霜ラガークラブ】

三井住友銀行 天満橋支店 普通口座 0957978

三菱 UFJ 銀行 大阪駅前支店 普通口座 0027557

ゆうちょ銀行 口座 00960-4-302152

令和8年度(2026年度)OB 総会等の予定

2 月 24 日時点での情報です。最新情報はホームページでご確認ください。

- ・理事会及び現役 4 回生慰労会 : 3 月 1 日(日) 神戸大学大阪クラブ (旧大阪凌霜倶楽部)
- ・OB 総会 (および懇親会) : 4 月 26 日(日) 深江キャンパス
- ・ラグビーフェスティバル : 6 月 7 日(日) 深江キャンパス G (詳細未定)
- ・東京支部総会 : 未定

神戸大学ラグビー部ホームページ

(URL) <https://www.koberfc-official.com>

ホームページ中のOB会員ページを閲覧するためにはパスワードが必要です。

OB会員ページのパスワード : ryosorugger2025

現役チーム情報は、Instagram、Facebookでもご覧いただけます。

Instagram : https://www.instagram.com/kobe_urfc/?hl=ja

Facebook : <https://www.facebook.com/Kobe.Univ.Rugby>

名簿内容変更の連絡について

- ・会員の住所、電話番号、メールアドレスなどの変更は事務局で随時受け付けています。変更があった場合は速やかにOB会事務局までご連絡願います。

神戸大学ラグビー部OB会事務局

- ・メール kobe.u.rfc.ob@gmail.com
- ・電話 080-9293-0441(遠藤OB会事務局長の携帯電話)
- ・郵便 〒666-0015 川西市向陽台3-5-92(遠藤勉)
- ・FAXはありません。

編集後記

会報担当 : 福本 裕郁(S63卒)

冬号では今年度の現役チーム・OB会活動会報の振り返りを主に扱います。また、通例では春夏号での掲載となる新シーズンに向かってについても今号では取り上げました。今期の反省をもとに来期に向かおうという意図です。

戦績やトピックスは既にホームページに掲載したものをまとめ直したものになっております。ホームページには会報には掲載しきれない写真や動画も多く掲載しておりますので機会があればそちらもご覧いただければと。

最後に2026チームの部員募集のフライヤー(チラシ)の写真を掲載します。

皆さんの関心・応援が現役チームの後押しとなります。

